專門教育

裁縫全書

高等裁縫及雜の部

東京女子專門學校
東京裁縫女學校
編纂

專門教育

裁縫全書

高等裁縫及雜の部

東京女子專門學校
東京裁縫女學校
編纂

東京裁縫女學校出版部
發行

緒　　言

大正十二年九月一日の大震災で,本校出版部の發行に係る書籍は,その紙型全部を烏有に歸したので,取急いで全部改版したが,尙高等裁縫及雜の部は,前に編纂せられて無かつたので,今度新に稿を起し,玆に四百頁に滿つる大部のものが出來て,諸姉の前に提供せられる事に成つたのである。

是で裁縫全書が全部完成と云ふのでは無いが,高等なものまで一通りは,揃つた譯である,諸姉は單衣の部から始め,全部を併せて研究せられるならば,先和洋服全般の事は,差支のないものと信じて,これを世に提供するのである。

大正十四年七月　　編者識す

裁縫全書 高等裁縫及雜の部目次

小　袿……1
單　衣（小袿の下に用ひる）……6
緋の切袴……9
緋の本長袴……13
直　衣　大直衣小直衣……15
直垂　同袴……29
水　干……38
同下袴……46
白　張……49
狩　衣……52
大　紋……58
同下袴　本長袴……60
袙　衫……67
指貫袴……78

縞袴　同裏の裁ち方……84
義經袴……89
野　袴……92
小　袴……96
平　袴……99
細　袴……102
裁附袴……106
シヤモ裁附袴……112
モツペイ袴(男女)……115
裝束及法衣……126
素　絹……141
布衣眞……147
十德　三種……154
偏　綴……165
門徒肩衣及帽子……169
辯護士制服……172

同　帽子……181
三歲羽織……184
被　衣……187
胞　衣……191
看護服……194
同　帽子……203
幟……206
幕　二種……210
瀨川帽子……215
事務服　二種……217
手術衣　三種……228
割烹前掛　三種……239
男子の割烹服及同帽子……248
運動着……254
野球用シヤツ・同パンツ・同帽子,庭球用シヤツ・同帽子,ランニング用猿股・同帽子
水泳着　二種……280

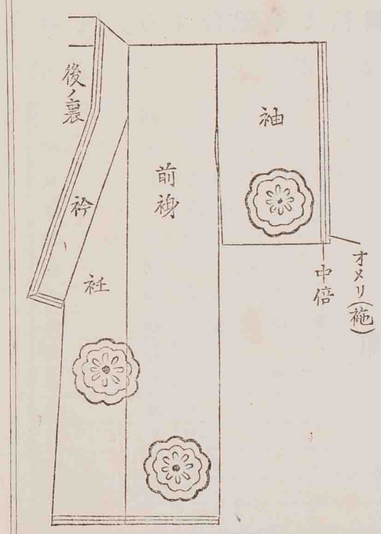
袢纏類……287
女綿入袢纏,鯉口袷袢纏,印袢纏,子守袢纏
腹　掛……304
襦袢腹掛,單腹掛
脚　絆……314
山附脚絆,大津脚絆,横地脚絆,釦掛ケ脚絆
手　刺……328
手　甲……331
消防衣……333
長袢纏,頭巾,すいし
柔道着・同ズボン・同帶……345
撃劍稽古着……354
油　單……356
箪笥油單,長持油單,挾箱油單,釣臺油單,琴油單
鏡の被ひ……373
兩面着物……376

兩面羽織……377
帛　紗……379
風呂敷……381
手提袋の類……382
リング附手提袋,千代田袋二種,總附手提袋,學校鞄,信玄袋(一名合切袋)

小　　袿

小袿は五つ衣を略したもので,下に單衣を重ねて着するものであるが,日常は中倍(ナカベ)のないものを着用する。

中倍は重ね袿と云ひ,下著を重ねた様に,表裏の間に挾んで,オメリにしたものである。



名稱　圖參照

地質
- 表　堅地織(六十歳以下は浮織物を用ひその以上は沈み織物を用ひる)。
- 中倍　裏の地質に同じ。
- 裏　平絹,但し夏は紗生絹(すゞし)。

色目

五節句等の御盃の時は

表·白　中倍·蘇芳　裏·萠黄等。

色物を着用する時は,

表·白　中倍·萠黄　裏,紫等。

其の他は四季の花,季節の名などを取つて,調和よく配合する。(その三四を參考までに記す)。

春の部
- 紅梅重
  - 表·薄紅
  - 中倍·萠黄
  - 裏·紫
- 藤重
  - 表·薄紫
  - 中倍·白
  - 裏·萠黄

夏の部
- 卯花重
  - 表·白
  - 中倍·蘇芳
  - 裏·萠黄
- 若楓重
  - 表·萠黄
  - 中倍·薄紅
  - 裏·紅

秋の部
- 萩重
  - 表·蘇芳
  - 中倍·紫
  - 裏·萠黄
- 女郎花重
  - 表·黄
  - 中倍·薄黄
  - 裏·青

冬の部
- 枯野重
  - 表·香
  - 中倍·縹色
  - 裏·青
- 雪重
  - 表·白
  - 中倍·薄紅
  - 裏·紅

仕立て上げ寸法(着物を標準にする)。

(寸單位)

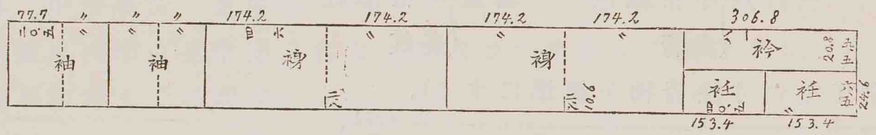
名稱	寸法	備考
袖丈	20內外	
身丈	着丈ヨリ18.位長ク	背丈ノ高イ低イニヨツテ多少斟酌スル
裄	着物裄ヨリ1.5位長ク	女官等ノ平常着ハ着物ト同ジ位
袖幅	裄ノ.二分ノ一	
袖附	8	人ニヨリ又着方ニヨリテ多少異ル後ヨリ前ヲ少クスル事モアリ
後幅	袖幅ニ同ジ	
前幅	0.5裾口ノ方デ開ク	
衽幅	5	
衽下	6	
衿幅	3	
衿下	24	
衿肩	2.5	
身八ツ口	3	
オメリ	0.25	

注意

寸法は,其の着する人によつて定めるも,禮服代用として着用する場合には,幅を廣く仕立てる。

又袖幅下の方で,0.5 寸廣くすることもある。

幅12寸の布を以て,小袿表の裁ち方積り方。



積り方公式　4袖丈＋6身丈－2裁ち切り衽下り＝用布

同　　算式　20.5×4＋46×6－5.5×2＝347

裏の裁ち方　身丈をオメリ(袍)の四倍だけ長くする,他は表の裁ち方に同じ。

裏表の外に中倍になる布を裁つ

寸法
- 袖 幅　1寸
- 袖 丈　4袖丈
- 裾 幅　一幅のものを五枚とる(内一枚は半幅にして衽にする)
- 裾 丈　2寸
- 衿 幅　1寸
- 衿 丈　裁ち切り衿丈＋2衿幅

標附け方
- 表　袖口が廣袖になるのと,寸法の大なる他は,普通袷服と同じ。
- 裏　袖幅及衿幅を,表よりオメリの四倍廣くするのと,身丈及衽丈を,オメリの四倍長くする,他は表と同じ。

縫ひ方　(堅地のものなれば,針目0.2寸位に刺し縫ひにする)。

(い)袖口に用ひる中倍の幅を,二つに折り,袍標をなす(0.25)。

(ろ)裏表の袖口を合せ,其の中に中倍を挾んで縫ひ,折りは表袖の方に返す。

(は)裏のオメリを中倍から先きに0.25寸出して,袖幅標をする。

(に)裾の中倍を,表身幅に合せて,脊·脇·衽の縫ひ目を附けて,幅を二つに折り,袍標をする(0.35)。

(ほ)裏表の脊·脇を縫ひ,衽を附ける。

(へ)裏表の裾口を合せ,其間に中倍を挾み,縫ひ目をよく合せて縫ひ,折りは表の方に返す。

(ど)裏のオメリを定めて,背·脇の縫ひ目を綴ぢ,身八つ口を縫ひ袖をつける。

(ち)衽の縫ひ目を綴ぢて,衿下を縫ふ。

(り)裏表の衿で,褄を挾さんで四つ縫ひにする。

(ぬ)裏表の衿幅を定めて,折りを附け,次に衿先きの方も折る。

(る)衿の中倍を袖と同様に,幅を二つに折つて,袵標を附ける。

(を)中倍を,裏の折り山から,オメリ幅だけ控へておき,奥の方を縫ひ附ける。但し衿先の角は,下の布を上にして襞を取つて,額縁の如くになし衿附けの方では,裏の折り代の間に,中倍の端を挾み込む。

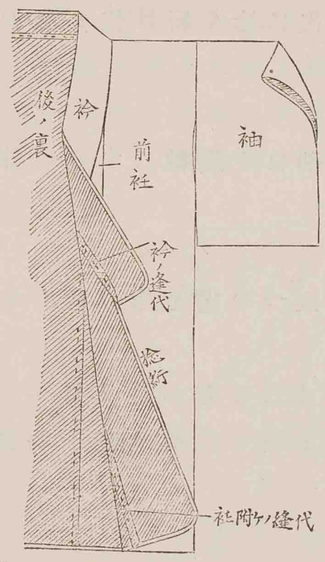
(わ)表衿を,中倍の上に載せて,絎け附ける。

單衣(小袿の下に用ひる)

名稱　圖參照

地質

平絹又は綾織を用ひる,故に有紋と無紋とがある。



裁ち方積り方

上着の表に同じ。

色　緋又は萠黄等。

仕立て上げ寸法

(寸單位)

名稱	寸法	備考
袖丈	上着袖丈−0.3	
袖幅	上着袖幅+1	
袖附	上着袖附−0.1	
身丈	上着身丈+4乃至6	
衿下	上着衿下+上着ヨリ身丈ヲ長クシタ分	
衿肩	上着衿肩−0.1	
衿幅	上着衿幅+0.5	
丸ミ	裾及衿先丸ミ1	但シ附ケナイ時モアル
身幅	上ニ同ジ	

但し身丈は仕立て上り寸法に,三つ衿縫ひ代に,捻り絎け代とを加へる。

標の附け方

前袖丈を,0・2寸長くして,標を附けるのと,袖口を廣袖にするの外は,普通單服に同じ。

縫ひ方 (上着と同樣か,二目落しの刺し縫ひにする)。

(い)袖口を捻り絎けにして,袖幅標をなし,振り八つの處を,絎け代だけ殘して,裁ち切りたる後,捻り絎けにする。

(ろ)袖下を縫ふ。其の縫ひ方は,前袖下を0・2寸表の方へ折り返へして,袖下標を合せ,兩端を留めて,兩端の縫代を斜めに折り,袖下の縫代を,更に二つに折り曲げて縫ふ。

(は)衽の衿下と裾とを,捻り絎けにする。

(に)裙の裾口を,一枚毎に捻り絎けにする。

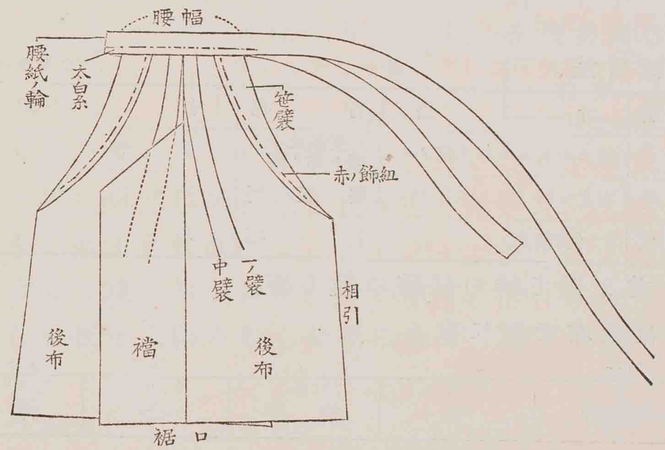
(ほ)背・脇を縫ひ袖を附ける。

(へ)衽を附ける,其の附け方は,袖下と同樣に,衽で前裙を包んで縫ふ。

(と)衿山及衿先を捻り絎けにして,衿幅標をする。

(ち)衿を衽と同樣に,衿で裙を包んで縫ふ。

緋の袴 (打袴とも云ふ)



仕立て方種類{本長袴　これを仕立てる時に裄と單とにする。
　　切　袴

地質　緋の平絹を,板引にしたものを用ひる。

名稱　圖參照

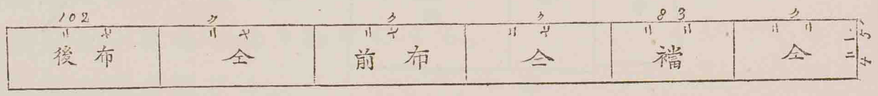
緋の切袴

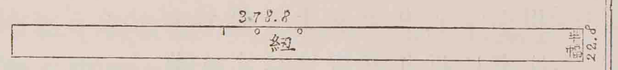
仕立て上げ寸法　(寸單位)

名稱	寸法	名稱	寸法
丈	着スル人ニヨツテ定メル	客襞幅及一ノ襞上部ノ幅	1
相引	布丈−12	笹襞幅	2
腰幅	8 (前後共)	紐幅	2

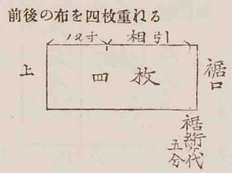
幅12寸の布を以て,緋の切袴の裁ち方。

但し紐は共布で別に取る





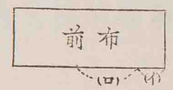
標の附け方



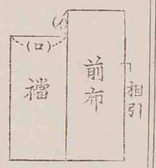
縫ひ方　(刺し縫ひにする)。

(い)27寸の布と襠とを一圖の如く合せて縫ひ折りは襠の方へ返す。(前後共同じ縫ひ方)。

一圖



二圖



(ろ)別の27寸の布を二圖の如く,合ひ標に合せて縫ひ附け,折りは後に縫ひ附けた,27寸の布の方へ返す(前後共)。

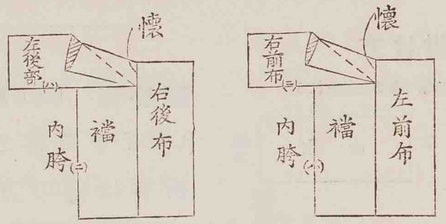
(は)相引きを合せて縫ひ,折りは前の方へ返す。

(に)縫ひ合せた前後を,三圖の如く合標に合せて,胯下を縫ひ折りは襠の方へ返す。

(ほ)裾口を三つ折りにして絎ける。

(へ)相引き止りから上を,縫代だけ裏に折り,耳絎けにする(前後左右共)。

三　圖



(と)襞を取る,其の取り方は

(イ)懷を二寸にし,左右の襞と襞とを,懷縫ひ目の處で突き合せる。

(ロ)一の襞を中襞から3寸相引きの方へ寄つて,折りを付け寄せ襞を取る。

(ハ)笹襞幅を2寸になる樣に折りを付け一の襞の折り山からは1寸離して恰好よく折り,中から普通袴の如くに綴ぢ,表から赤太白糸二本で二目落しに,飾り縫ひをする(前後共同樣)。

(ち)紐に芯を入れて,左右の端を縫ひ,表に返して右前になる方を端から22寸の間絎け,それから20寸位殘して殘りを全部絎ける。

(り)紐を附ける,其附け方は,厚紙を前後續けて,普通袴の如くに裁ち,これを表紐の裏に合せて,綴ぢ附け(右前紐の先から24寸入つた處と,厚紙の腰幅標とを合せる)太白糸二本で,襞の山々に小針の出る樣に,又左脇の2寸の處は,大針だけにして,腰飾りをなし,普通の袴と同樣に附けて絎ける(左前後の間を2寸明)ける。

但し裏表の紐で,腰を挾んで赤の太白糸で綴ぢ附ける仕方もある

緋の本長袴

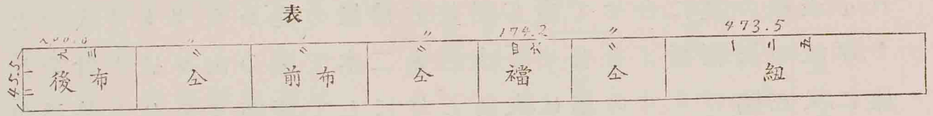
仕立て上げ寸法

(寸單位)

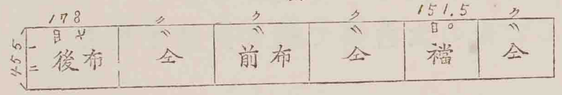
名稱	寸法	名稱	寸法
丈	50位	腰幅	9
相引	36	紐幅	一バイ
寄襞幅	切袴ニ同ジ	裾口ノ折リ返シ	3
笹襞幅	2.5	右後紐ノ出シ方	40
左脇ニテ腰幅カラ腰紙ヲ出ス分	1		

幅12寸の布を以て緋の本長袴の裁ち方 (袷)

表

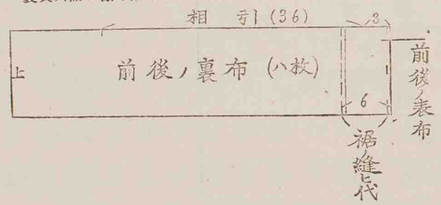


裏



標附け方

裏表共裾の標を附けた後ち表の上を裏重れる



縫ひ方

(い) 裾口を一枚毎に合せて縫ひ,折りは裏に返し,表を3寸裏に折り返す。

(ろ) 襠の裏表で左前布を挾んで縫ふこと,及右前布で懷と,襠の上部を挾んで縫ふことは,單切袴の方法に同じ,但し後も前と同様にして縫ふ時,襠の上部の處は,裏を殘して縫ふ。

(は) 内袴を襠で前後の布を挾んで,四つ縫ひにし,表に返して,襠の上部を絎け附ける。

(に) 相引から上の後を(笹襞の處)表は,縫ひ目を眞直に,裏は自然に0.1寸深く縫ひ,折りは裏に返して,表を出し縫ひ目を正しくする。

(ほ) 相引きを,前の裏表で後を挾み裾口から相引き止りまで四つ縫ひにし,其處で糸留めをして,後と同様に前笹襞の處を縫ひ,表に返す。

(へ) 襞の取り方·飾の仕方·紐の附け方等は,單切袴と同じ方法にする。

直衣

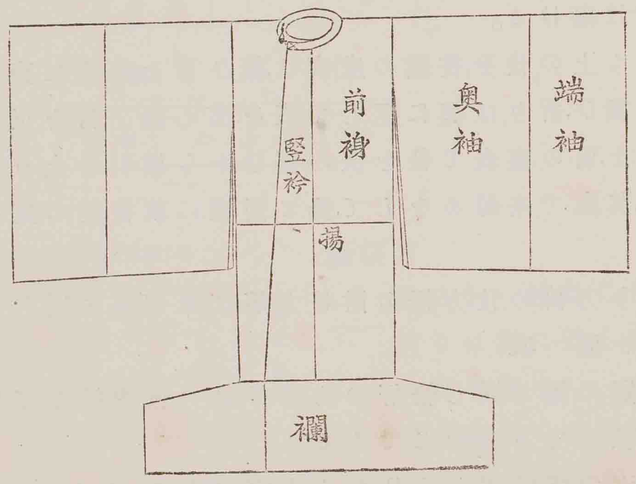
直衣は衣冠の袍と同じ恰好のもので,たゞ色模様などに違ひがあるのみで,仕立て方も同じである。

公卿の宿直の時に,用ひられたるものである。

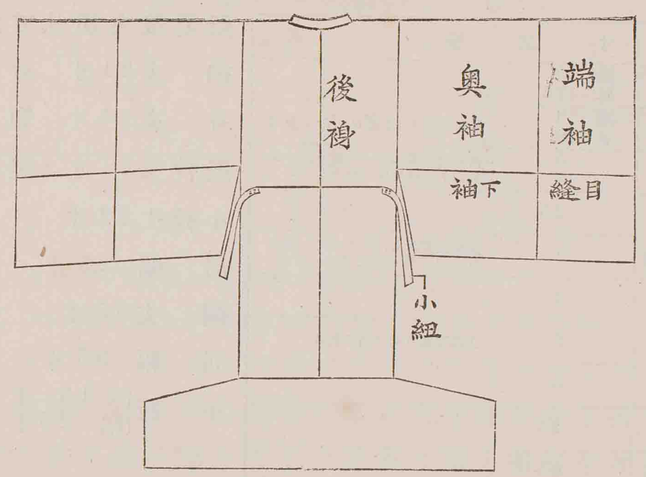
地質は裝束地を用ひ色は定まらぬ。

直衣出來上り圖

前



後



用布の幅　地質によれども,普通は12寸乃至13寸。

仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱		寸法	備考
袖丈		端 20 奥 17.5	
袖幅		端 8 奥 10	幅の殘りは裏の方へ返す
袖附	前 後	5 14	袴の山で前を後へ6.繰り越すから袖下の縫目後へ廻る
袖下斜に		2.5	
身幅	前後	11	後揚は背から 12.下つて7.揚を取る前は袍の時と等しくする
身八つ	前	4	
竪衿幅	上	3	上部で幅5丈2.斜に折る
	下	5	
衿肩		2.5	
小衿幅		0.7	
襴幅		8	
同丈		84	

所要裁ち切り寸法

袖　丈21寸　衿　肩3寸

身　丈44寸　顎　3寸

竪衿丈41寸　竪衿幅{上3.5寸 下5.5寸

小衿丈22寸

同　幅　2.5寸

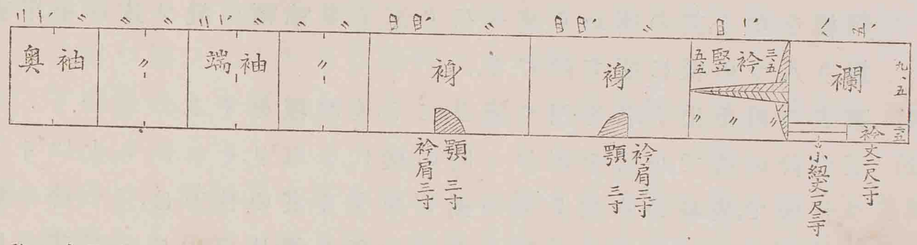
襴　丈85寸

同　幅　9.5寸

小　紐{丈13寸 幅2.5寸

幅12寸の布を以て,大直衣表の裁ち方。

裏の裁ち方は,表と同じ襴の布を幅のまゝ裁つ。



積り方公式　8袖丈＋4身丈＋竪衿丈＋襴布＝總尺

同　算　式　21.×8＋44.×4＋41.＋85＝470

縫ひ方

(い) 裏表の端袖(ハタソデ,口先布)になる方を,縫ひ合せ折りは裏袖の方へ返し,表を裏へ幅のあるだけ折り返し,幅標をなして,袖下を四つ縫ひにする。

(ろ) 奥袖の裏表を出し,袖下を四つ縫ひにする。

(は) 奥袖と端袖とを縫ひ合せ,折りは端袖の方へ返し,裏の表に縫ひ目を出し,端袖は幅標の所を縫ひ,奥袖は普通の縫ひ代で,奥袖の幅標をなし,其の所から裏へ折り返し,奥袖幅の縫ひ込みを,單衣振り八つの様に綴ぢ附ける。

(に) 裏表の裾を出し,背を四つ縫ひにし,後幅標をする。

(ほ) 三つ衿の所で,小衿を附ける時の,縫代を取り,それから,丈12寸下つた所で,後身のみ丈7寸の揚げをする,其の仕方は,三つ衿の縫ひ代を,取つた所から,丈19寸下つた所を揚げの山にして其の所で背縫ひから左右へ,7寸の所に標をなし,12寸下つた所を後幅標まで斜に標を附け,其の標通り,裏の表に針目を出し,兩脇の所を縫ひ合せる。

(へ) 脇を縫ふには,裏の表に縫ひ目を出して,裾口で前後の身丈を揃へ,身八つ口の所まで縫ひ,折りは前に返す。

(と) 竪衿の裏表を出し,裾に附けぬ方(丈の長い方)を,裏表縫ひ合せ,折りは裏へ返し,表を裏へ幅·2寸折り返して置いて,竪衿の幅標をする。

(ち) 前幅標をして,竪衿を縫ひ附け,裏の表に縫ひ目を出して,裾口から四つ縫ひにし折りは竪衿の方へ返す。

(り) 下前竪衿上の幅を·5寸取り,丈2寸の間で,斜に裏へ折り返し置く。

(ぬ) 小衿には,厚紙又は布を芯に入れ,捻り糸で返し縫ひにし,下前竪衿幅を·5寸裏へ折り返した折り山から,附け始め,上前竪衿幅の止りまで縫ひ附け,折りは小衿の方へ返し,小衿幅の標をする。

(る) 同布を細く捻り絎けにして,其紐で蜻蜓結(シヤカ結)を一個造り,これを上前衿先の衿山に當て,表裏の衿で挾み(シヤカ結の丈1寸出す)衿先を縫ひ,下前衿先も縫ひ,折りは裏衿の方へ返し,裏へ小針に絎け附ける(入れ紐とて,最初くびかみを通して,紐を入れたるを云ふ)。

(を) 同布を細く捻り,丈2寸にし,先の方へ丈.5寸ー・6寸の間輪になし,それから丈の終りまで,繩の様に左捻りにし,衿幅の中央へ,白太白糸で,圖の様に綴ぢ附ける, (表ㅁ) (裏⋈)。

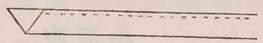
(わ) 上前小衿先に,シヤカを縫ひ附けた處も,表から白太白糸で,圖の様に止める(⋈)。

(か) 袖を附け,縫ひ目は裏の表に出し,折りは袖の方へ返す。

(よ) 前褄の八つ口を,單衣の様に綴ぢ附ける。

(た) 襴を裏表出し,裾口になる様に裏表縫ひ合せ,折りは裏の方へ返し,表を裏に.2寸折り返し,兩端を毛抜き合せにして,縫ひ合せ,折りは裏へ返し,幅8寸に標を附け,裏幅の殘りの端を,縫ひ代だけ布の裏へ返し,其所と幅8寸の標を合せて,裏の殘り幅を二つに折り,其の中に裏表の褄を縫ひ代だけ入れ,襴の兩端は單衣の褄先の様に斜に折り,上前竪衿の端と襴幅の端とを揃へ,下前竪衿幅の端と襴幅の端とを揃へて,待ち針を刺し,襴丈の中央と背縫ひ

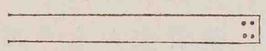
襴の附け方裏から見る



とを揃へて,前後共身幅と襴の丈とを揃へ,襴丈の殘りし分は,左右の脇へ等分に出し置いて,五枚共に縫ひ付け,折りは襴の方へ返し,襴の兩脇を裾口から幅7寸にし,褄の脇の處まで斜に縫ふ。

(れ) 紐を附ける,一方の端は裁ち目のまゝになして,紮け目が裏幅の中央になる様に紮ける。

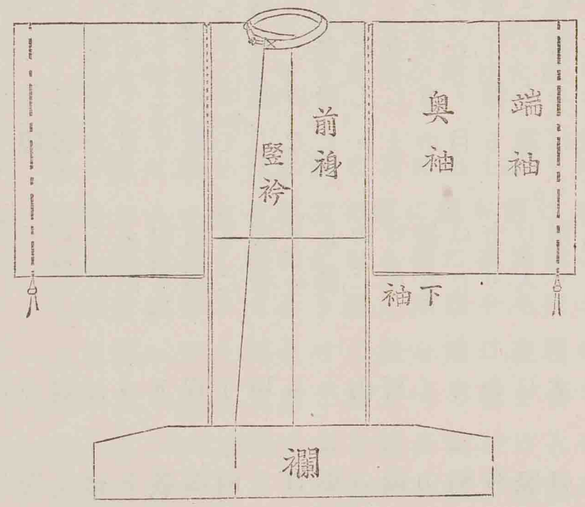
(そ) 紐を後褄に附ける,其附け方は揚げの止り即ち肩山から,12寸ー13寸下り脇から幅2寸入りたる所に,圖の様に綴ぢ附ける。



(つ) 後褄の長き分は,後身丈に合せて,肩山から19寸程下つた處を,山にして疊む。

注意　單の時は,袖口・八つ口・竪衿幅山・襴の裾口と兩端等を,捻り紮けにし,袖下・竪衿附け等は,挾み縫ひにする。

前



小直衣

小直衣は皇族又は御攝家などで用ひたもので,近來はあまりに要がない,其の恰好は圖の樣に,狩衣の裾に襴の附いたもので,身の丈は狩衣より短く後着丈から6寸短き方を普通とし,仕立て方も,狩衣と同じく袖露のあるもので,唯襴の附け方は,袍の襴とは

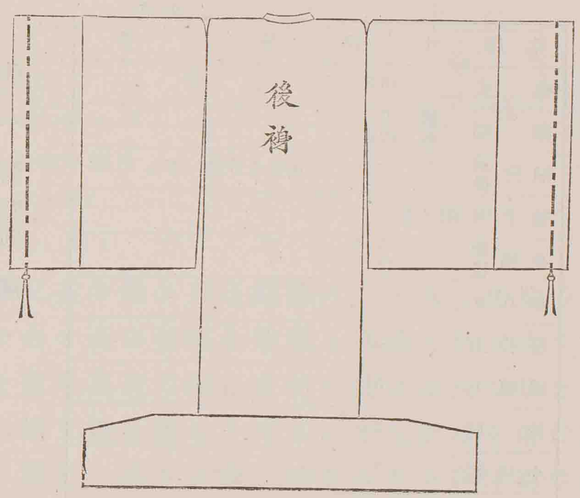
少しくかはつた所がある。

地質　裝束地

　出來上り圖

用布の幅　地質によれど,普通は11寸乃至13寸。

後



仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法	備考
袖丈	19 5	
袖幅	端 7. 奥 12.5	
同附前後	6.	山から.5後へ下る
袖下明	附ノ方 3.	
身幅前後	5.-6. 12.	
身八ツ		
竪衿上	3.	
同幅下	5.	
衿肩	2.5	
小衿幅	7.	
襴幅	7.5	
同丈	67.	

所要裁ち切り寸法

袖　丈 20寸

小　衿 {幅 2寸 / 丈 22寸}

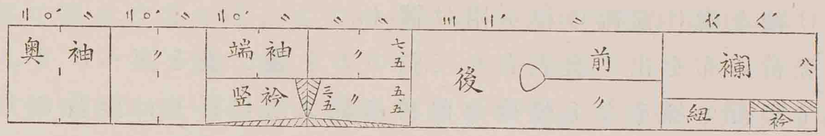
前後身丈 32寸

竪衿丈 30寸

同衿幅 上 3·5寸　下 5·5寸

襴　布 {幅 9寸 / 丈 68寸}

幅13寸の布を以て小直衣の裁ち方。



積り方公式　8袖丈＋2身丈＋襴布＝總尺

同　算式　20.×8×32.×2＋68.＝292.

縫ひ方

(い) 端袖と奥袖を縫ひ合せ,其の縫ひ目は,端袖の方へ返し,裏袖の方も,表地と同様に縫ひ合せ,表の袖幅を端袖も奥袖も,出來上り寸法より2寸廣く標を附け,裏表の標を合せて袖口及八つ口を縫ひ,縫ひ目を裏の方へ返し,表を裏へ1寸ふかせて,折りを附け,裏の表に小針目の出る様にし,袖下を縫ひ(袖下の方を3寸明け置く)其の縫ひ目は左右に開き,縫ひ込みの端を折りて絎け置く。

(ろ) 裏表の裾を出し,後袖附けの處を殘し置きて,前後左右の脇を縫

ひ,其の縫ひ目は,裏の方へ返し,表を裏に.1寸ふかせて,折りを附け袖を附け,前幅の標を附け置く。

(は) 竪衿の布を出し,裏表合せて,斜の方を縫ひ,表を裏へ.1寸ふかせて,竪衿の標をなし,竪衿を前褄に縫ひ附け,折りは竪衿の方へ返し置く。

(に) 直衣の様に小衿を附ける。

(ほ) 襴布を出し,裏表を揃へて,裾口になる一方を縫ひ合せ,左右の端を,毛抜き合せに縫ひ,表返して襴布幅8寸の標をなし,裏幅の縫ひ込みを折り,其の中に褄を裏表共入れて,左右の端は,直衣と同じ様に折つて,五枚共に縫ひ,左右の脇8寸の所を,縁の様にして,脇の襴布幅を7寸とし,脇を3寸明け置き,殘りを斜にして,裏の表に縫ひ目を出して縫ひ置く。

(へ) 縫ひ上りたらば,前と後と身丈を揃へて,前に6寸の揚げの様に拵へ,折りを附ける。

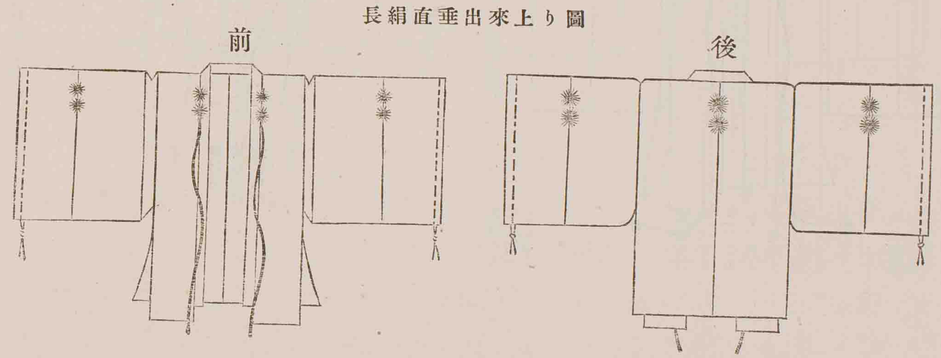
(と) 袖口には出來上り圖の様に,平打紐にて飾り縫ひ(袖露)をする。

(ち) 當て帶を,狩衣の様に丈の中央に芯を入れて,絎け附ける。

直垂

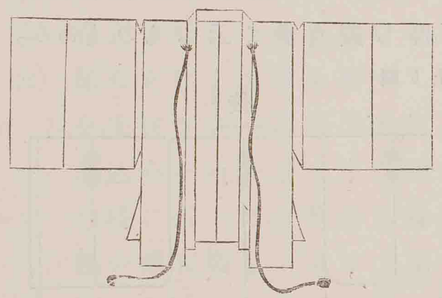
直垂の原は,古の武士の宿直に着したものである,前後も短く,下衣の様なれば,袴に着込みしもので,鎌倉時代の武士は,平常は專ら水干を着し,戰に臨む時は,必直垂を着したもので,即ち鎧直垂と云ふものもある。

長絹直垂出來上り圖

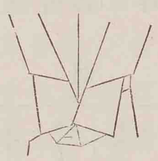


種類　五種ある即ち裏打直垂・單直垂・長絹直垂・鎧直垂・夜具直垂等である。

前

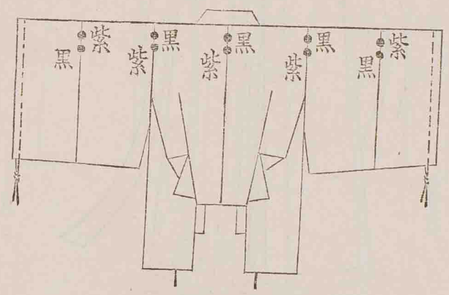


たる圖より見後襞裏



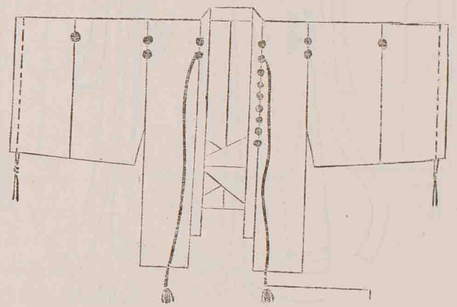
附ける所を衍け左右共此

後



鎧直垂出來上り圖

前

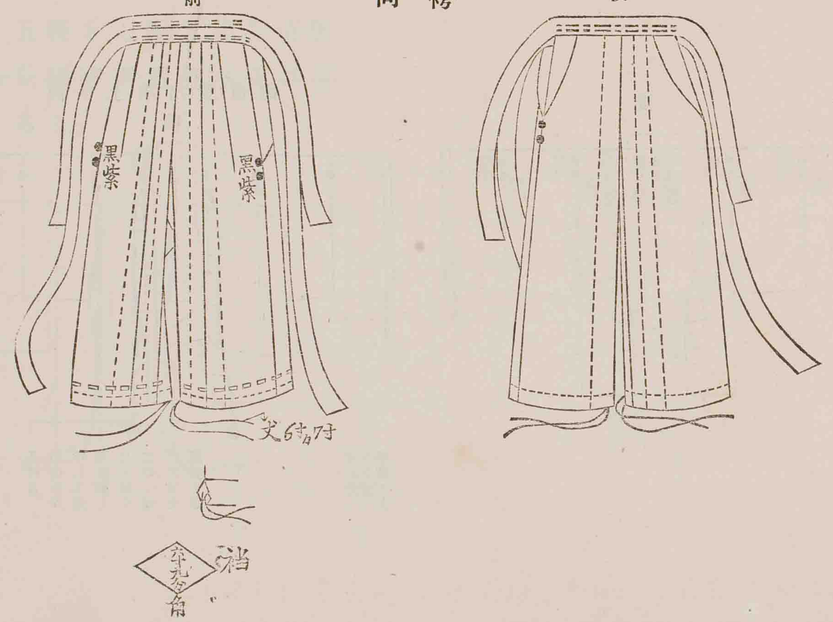


せて十一ち左右合衿の紫絲

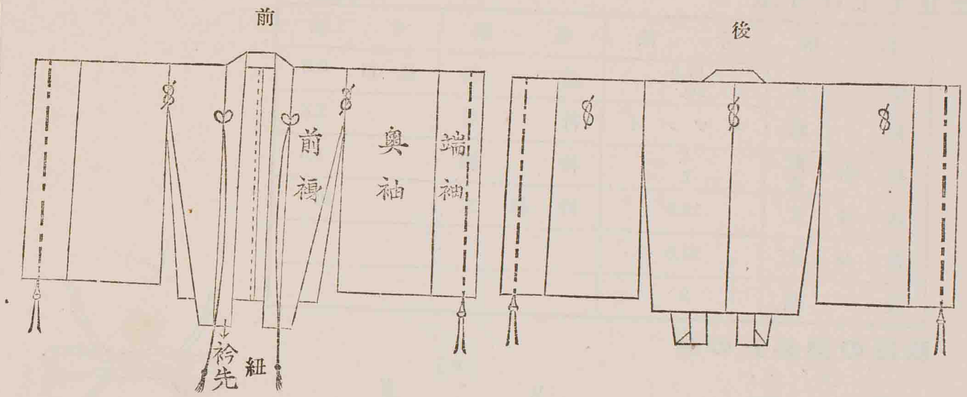
ろげるの先をひにして糸三針刺しりて付く二つに切尺六寸を紐長さ三

寸三分きさ徑一菊綴ち大

同袴



圖り上來出垂直衣單



地質　生絹·精好·錦·紗等。

地色　赤·黑·黄等。

仕立て方　單·袷等がある。

用布の幅　地質によれども,普通は10寸乃至12寸。

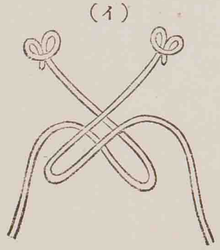
仕立て上げ寸法

（寸單位）

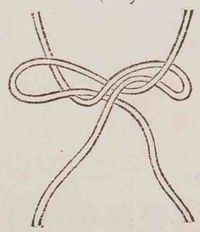
名稱	寸法	名稱	寸法
袖丈	17.5 20.	前幅	裾口 0.8
袖幅	イツバイ	衿肩	2.3
袖附 前 後	4. 7.	衿幅	1.5
後身丈	19.5	衿紐丈	30.
前身丈	21.5		
後幅	8.		

胸紐の納め方の圖

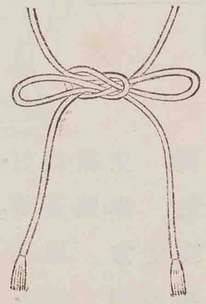
（イ）



（ロ）

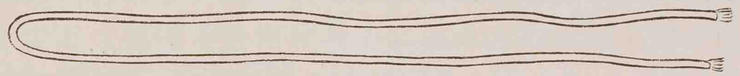


（ハ）

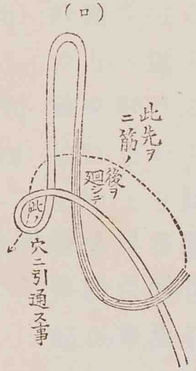


露の式

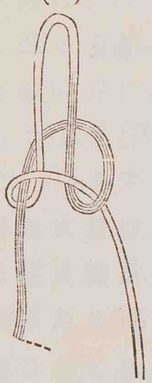
（イ）



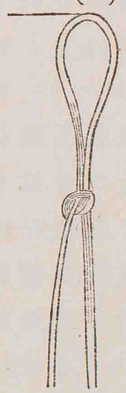
（ロ）



（ハ）

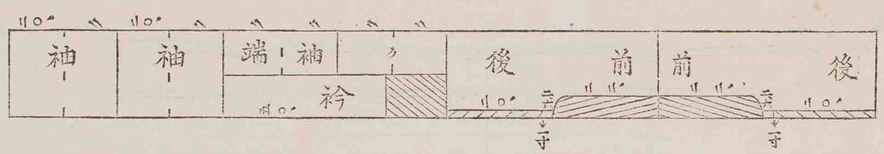


（ニ）



（ホ）

幅12寸の布を以て單衣直垂の裁ち方。



積り方公式　8袖丈＋4身丈＋2前後の差＝總尺

同　　算式　19.×8＋20.×4＋2.×2＝236.

縫ひ方　(縫ひ目は刺し縫ひにする)。

(い)　袖口及振り八つ,を捻り絎けにする。

(ろ)　端袖と奥袖とを縫ひ合せる,其の仕方は,端袖の裁ち目を,縫代だけ表に折り返し,其の裁ち目に,奥袖を突き合せて,縫ひ代を二つに折り,中の折り山の處を縫ひ,折りは端袖の方に返す。

(は)　袖下を袋縫ひになす。

(に)　裾の脇及裾口を,捻絎けにする。

(ほ)　背を刺し,折りは着物の様に返す。

(へ)　前裾の衿附けの,處を折る,其仕方は,前裾の裾口の處で,8寸に幅を定めて,脇布を衿附けの方に返す(左右共同じにする)。

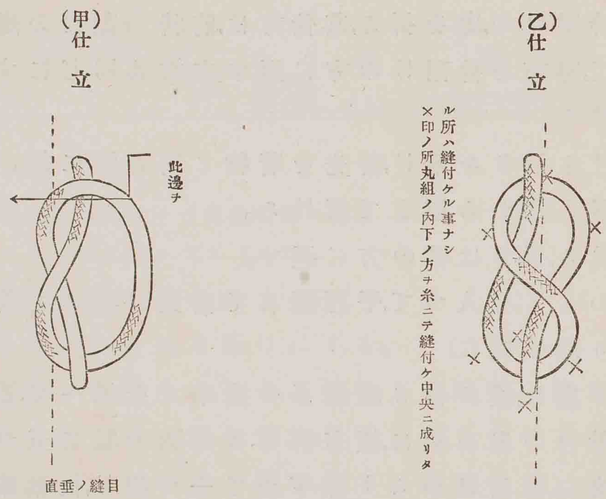
(と)　衿を附ける。

(ち)　衿幅3寸と折りを附け,衿先を着物と同じ様に縫ひ,折りを裏衿の方へ返し,端から端まで絎ける。

(り)　袖を附ける,折りは袖の方に返す。

(ぬ)　袖口先から1寸入つて,平打紐にて(白紫に染めて)飾縫ひをする(出來上り圖の様に)

(る)　衿附けの處に,縫ひ目と紐結びの眞中とを揃へて,圖の様に,打紐の表に針目の出ぬ様に,綴ち附け,次に圖の様に五つ結び,之を後幅の中央に,衿附けから1寸下つて一つ附け,後袖幅の中央,口先(端袖と奥袖との縫ひ目)に,袖山から1.5寸下つて,左右へ一つづゝ附け,前袖附の處で,袖山から3寸下つて,一つづゝ附ける。

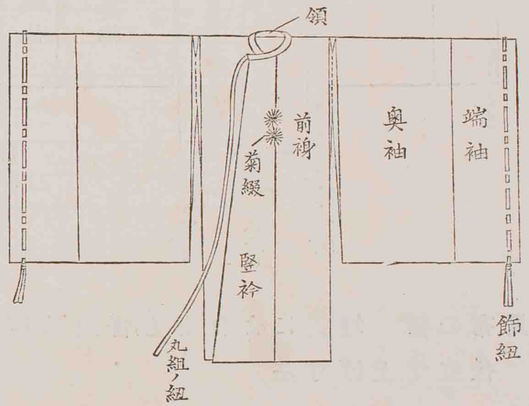


水干

水干は,狩衣の一種で,水干とは地質の名で,糊を用ひずに,水張りにして干した絹の名であるが,後には衣服の名となつた,此の服は,官服で

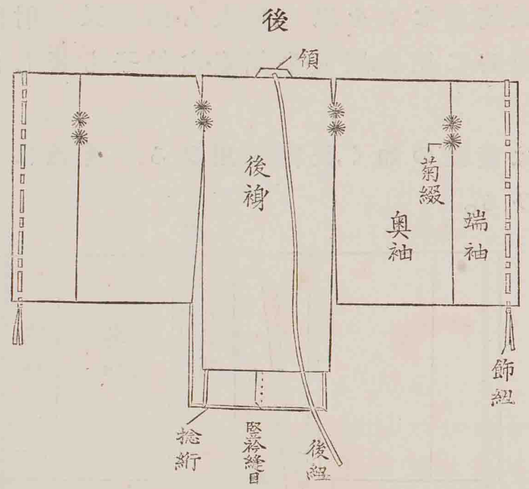
はなく,只簡便なるを以て,貴人も内々,又　射術蹴鞠等の時に用ひ,庶人·牛飼童·白拍子も著したと云ふ。

その袴は直垂の如く,長袴を用ひるが普通は半袴を用ひる。



着用順序　水干を着し其の上に袴を穿つ。

水干を着した處及各部の名稱　圖參照



地質　紗·精好·練平絹·羽二重·綿布等。

色　白·赤·緑·水色等で,重に白を用ひる。

用布の幅　地質によれども,普通は10寸乃至12寸。

仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱		寸法	備考
袖丈		20	
袖幅		一幅半	
袖附		肩カラ1.5下ツテ5寸	遊ブ人ホド袖附ヲ少クスル
袖下ノ明		3	
身丈	前	23カラ28位	
	後	20カラ23位	
竪衿下		3	
竪衿幅	上	2.5カラ3	
	下	5カラ5.5	
衿幅		0.5カラ0.6	
衿肩		2.5	

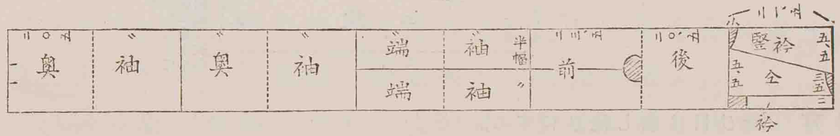
所要裁ち切り寸法

袖丈,20.5寸

身丈{後 2.05 / 前 23.5}

竪衿丈,21.5寸

幅11寸の布を以て水干の裁ち方及積り方。

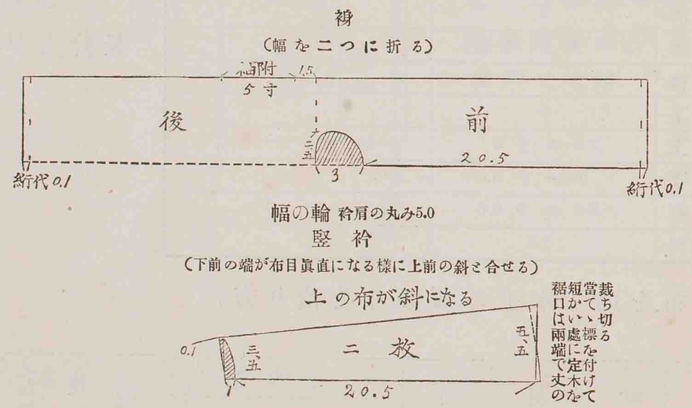


積り方公式　6袖丈＋2後身丈＋前後の差＋竪衿丈＝總尺

同　　算式　20.5 × 6 ＋ 20.5 × 2 ＋ 3 ＋ 21.5 ＝ 188.5

標附け方

袖　丈標と山標と袖附標とをする。



縫ひ方　(縫ひ目は刺し縫ひにする)。

(い)　袖口及振り八つを,捻り紵けにする。

(ろ)　端袖と奥袖とを縫ひ合せる,其仕方は,端袖の裁ち目を,縫ひ代だけ表に折り返し,其裁ち目に奥袖を突き合せて,縫ひ代を二つに折り,中の折り角の處を縫ひ,折りは端袖の方に返す。

(は)　袖下を明きだけ殘して,他を袋縫ひにし,明きの處は前後共三つ折りにして,紵け附ける。

(に)　裙の脇及裾口を,捻り紵けにする。

(ほ)　竪衿の端及裾口を,捻り紵けにする。

(へ)　竪衿で前身をくるんで縫ひ,折りは竪衿の方に返すこと,袖の縫ひ方に同じ。

(と)　衿を附ける,其附け方は,黄紙を揉んで糊氣を落し八重に折り疊み,衿と共に縫ひ附け,折りは衿の方に返し衿幅を定め置く。

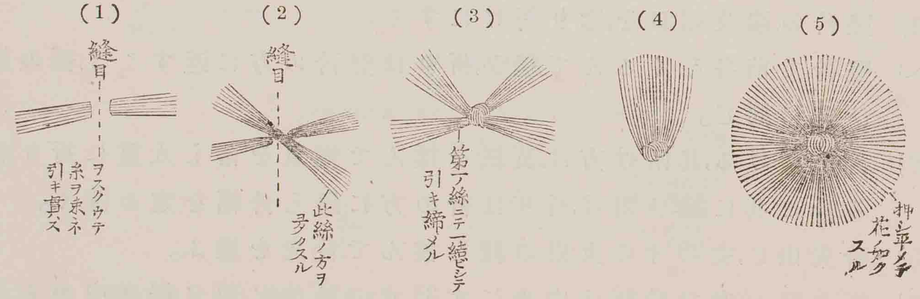
(ち)　衿先山に,丈28寸の丸組の紐を挾んで,衿先を縫ふ。

(り)　三つ衿の處で,衿幅の中央に,丈35寸の衿先と同じ紐を,中から外

に出して,中を綴ぢ附け置き,衿を綿けて圓領を作る。

(ぬ) 細かい絹糸で,菊綴ぢをする,(菊綴ぢは各縫ひ目を留める意味でする)其の位置後は·袖附けの上止りから,下に二つ並べて附け,端袖と奥袖とを縫ひ合せた縫ひ目に,袖附けの菊綴ぢより,少し下げて二個附ける,前は竪衿附けの縫ひ目に,上から左右の手を平らに並べて置いた位下げて,二つ並べて附ける。

其の仕方は,圖の順序に,菊花の如く作り,廻りをよく裁ち揃へる,

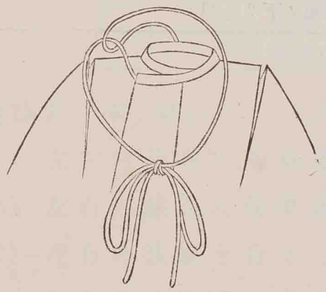


(菊綴ぢの糸の色は,其色を二つ並べる時と,異色を二つ並べる時とある,又略して一つにする時もある)。

(る) 袖口を先から,1寸入つた處に,大針を十一針に,小針の寸法を0.3寸位にして,菊綴ぢと同色の糸二本で,飾り縫ひをなし,其飾り紐を袖下に5寸下げて結び置く。

(を) 袖を附け,折りは袖の方に返す。

紐の結び方

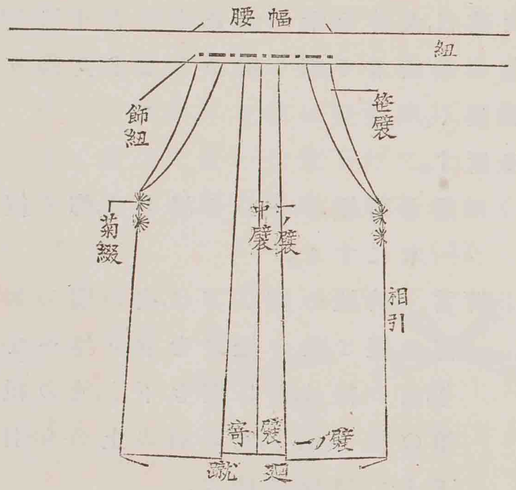


但し菊綴ぢ一つの場合は,飾り紐を一本にする。

附言　衿紐の結び方は,次の圖の如く,前の紐と後の紐とを取り違へて捩り,前の紐は,前に引き下し,後の紐は領の後へ廻し,左の肩の上から引き下して諸輪に結ぶ。

同下袴

名稱　圖參照



仕立て上げ寸法

（寸單位）

名稱	寸法
丈	着スル人ニヨツテ定メル（假定22）
後幅	7.5
前後ノ紐幅	1.8
角襠ノ下リ	11

幅11寸の布を以て,水干下袴の裁ち方積り方。

積り方公式　（紐下＋上下ノ縫代）＋前紐丈＝用布

同　　算式　（22＋3）×6＋80＝230

各部寸法割り出し方　（前後三つ襞）

名稱		割リ出シ方	名稱	割リ出シ方
相引ノ高サ		紐下 × $\frac{2}{3}$	一ノ襞幅	後幅 × $\frac{3}{4}$
寄襞幅	上	後幅 × $\frac{1}{8}$	笹襞幅	一ノ襞 × $\frac{1}{4}$
	下	後幅 × $\frac{1}{4}$		

縫ひ方　（刺し縫ひ）。

（い）左右の後布に,後奥布を合せて縫ひ,折りは奥布の方に返す。

（ろ）左右の脇布に,前奥布を合せて縫ひ,折りは奥布の方に返す。

（は）左右の後懷を合せて,上から11寸の間縫ひ,折りは背と同様に返し,それから下に,左右共角襠を縫ひ附け折りは奥布の方へ返す。